

西湖 - 乙女の湖

西湖は、「乙女の湖」として知られています。この湖は透明かつ穏やかですが、所々、水深 70 メートルのところもあります。西湖は、古代の水域、剡の海が 864 年の貞観大噴火の溶岩流で埋め尽くされた際に残った部分です。一部の歴史学者は、西湖という名称が剡の海の「せ」にちなんだものだと考えています。

この時の噴火により青木ヶ原樹海の下の大地が生まれました。現在の西湖の北西岸一帯からは、冷たく穏やかな湖水の向こうに側に深々とした「樹海」が広がり、その梢の上に目をやると富士山がそびえ立っている景色を見ることができます。西湖の北側にある十二ヶ岳と節刀ヶ岳ハイキングコースはその標高が高く見晴らしがよいので、全景を見渡すことができ、西湖はこれら 2 つの山へのアクセスに便利です。

クニマスの帰還

近年では、西湖はクニマス、英名の Black kokanee としても知られるベニマスの一種の保護への取り組みの中心となっています。1935 年、当時唯一知られていたクニマスの生息地、日本北部にある秋田県の田沢湖から数千というクニマスの卵が西湖に移されました。新たなクニマスの生息地を作る試みは失敗したように思われ、その後すぐに忘れ去られました。1948 年までには、田沢湖のクニマスは水力発電所の新設に関連した水素イオン濃度の変動により絶滅しました。

しかし、2010 年の西湖でのクニマスの発見は、科学界をゆるがせしました。結局西湖が、水温が低く深い場所での繁殖を好むクニマスの理想的な生息地であったことが判明したのです。その後、科学者は地元民がこの湖で同様に釣れるヒメマスほど美味しくないことから過去数十年間にわたってクニマスを釣っては湖に返していたことがわかりました。これらの釣り人にこの魚が絶滅したと考えられていたということを誰も知らせてはいないようでした。